

2 人

本物の「ホーム」を持つ

佐藤 誠



本物の「ホーム」を持つ

北海道大学 観光学高等研究センター

大学院 観光創造専攻 教授

佐藤 誠



ホームとは、まずは、母なる大地にしつかりと根差していること、あわせて、密度高く心通わせる人間関係がある暮らしのイメージなのだ。基礎と土台、壁と屋根で構成されるハードなハウスとは別の、戻っていくべきホームをグリーンツーリズムや田舎暮らしの旅で探していきたい。

セカンドホーム・ツーリズム発祥のスウェーデンでは、全世帯の半数が美しい田舎暮らしで人生を楽しんでいる。また、国家も信頼できず企業とて危なっかしいロシアでは国民の九割が自分の食を自給するダーチャとよばれるホームを、自力で仲間と連携して建て、耕している。

生涯六十三万時間をどこで、誰と、どのように過ごすかで人生の価値が決まるとすれば、その

筆者は、天草市とNPOグリーンライフあまくさとの連携と政府補助金で遊休農地を都市住民がリースし、アメニティ・リッチな暮らしを実現を目指している。暮らしと人生を輝かすライフウェア産業（生き甲斐起業で、ハードウェアやソフトウェア産業を下敷きに、健康と美容など生き活きた暮らしを興す多様なスモールビジネス群で構成される）事業創出がテーマだ。また、北海道でもアメニティ・リッチな景観を活かしたライフウェア産業創出への挑戦が始まっている。時代の危機そのものが危機克服の条件を整備する。「セカンドホーム」は、時代を拓くキーワードになるであろう。

戻

ついでいける場所、安らぎと喜びの空間を田園で探そう。

都会の「マイホーム」は、本当は単なるネグラに過ぎないのではないか。まずは通勤の事情、ついで懐ぐあい業者から買わされた私的所有の箱ものである「ハウス」と「ホーム」とは似て異なるものである。

九分の一にすぎない七万時間強の労働時間に縛られた暮らしに満足が得られるはずがない。競争に勝ち抜いて別荘を買っても、温かな人や自然との繋がりとは無縁である。

賞味期限切れの農地に関する法制度のバリアも、NPO農地リース制度でクリアできる。美しい田園に足しげく通うセカンドホーム・ツーリズムや暮らしの自給を目指すダーチャを日本でも実現しよう。

3 Pick Up !

移住者が増え続ける「新しい交流のカタチ」

宮城県 丸森町

8 ふるさと応援団

心ふるえる体験が「生きる力」を育む

沖縄県 恩納村

10 いきいき電源地域

鶴岡市の冬はイベントが盛りだくさん

山形県 鶴岡市

新年最初の上関町のイベント

『上関神明祭』

山口県 上関町

12 センター掲示板

- ・「エネルギープラザ2008 in御前崎」を開催しました
- ・「中小企業総合展2008 inTokyo」で企業立地支援制度をPRしました
- ・「でんきのふるさと青森じま市inごはんミュージアム」を開催しました
- ・「原子力発電所見学会」を実施しました
- ・Vol.13読者の声から
- ・今号でご紹介した電源市町村の発電所データ
- ・読者プレゼント

16 電気のふるさと産品自慢

さばのへしこ

福井県 美浜町

今号の表紙



新地発電所
(相馬共同火力発電株式会社)

出力:200万kW

運転開始:平成6年7月

写真提供:相馬共同火力発電株式会社